

令和2年度 厚生労働省
母子保健指導者養成研修
研修5. 子育て世代包括支援センターに関する研修

妊娠出産包括支援実務者連絡会議

◆ 月1回開催 (平成29年5月～)

- 母子保健担当課と児童虐待担当課(こども支援課)との連携
- 妊娠期から支援が必要な妊婦等の情報の共有
- こども支援課に配属されている精神保健福祉士、家庭相談員と連携し家庭訪問の実施

令和元年度 連携件数 延116人(内妊婦延17人)

3 精神保健福祉士との連携事例

ケース1 成育歴にリスクがある妊産婦
Aさん: 24歳 タイ国籍 未入籍 初産(2回目の妊娠)

支援経過(妊娠期)

- ◎ 母子健康手帳交付
 - ・ 面接及びアンケートの実施 → 成育歴からリスクが高いと考え、要支援妊婦とする
- <家族構成> 実母(タイ人) 養父(日本人) <サポート> 実母
- <成育歴> 日本で産まれ育っている為、読み書きコミュニケーションは問題なし
小中学校、いじめられていた
中学3年生、家の事情で養護施設入所(約6か月間)
- <既往歴> なし <経済面> 不安なし

◆ 出産後

- 産婦健康診査助成(産後2週間・1か月)
 - ・ 医療機関との連携
エジンバラ産後うつ質問票(EPDS)の結果、9点以上または産後うつが疑われる方への早期支援
- エジンバラ産後うつ質問票(EPDS)の10項目(自殺企図の有無)の質問に点数が付いた産婦に対しては、精神保健福祉士と連携し、同行訪問の実施
- 必要に応じて産後ケア事業の紹介
- 産後ケア事業
 - ・ 委託医療機関で実施(日帰り型、宿泊型)
- 乳児家庭全戸訪問
エジンバラ産後うつ質問票(EPDS)実施
9点以上の場合、再訪問の実施

支援経過(妊娠期)

- ◎ 妊娠出産包括支援実務者連絡会議
 - ・ こども支援課(精神保健福祉士)と情報共有
- ◎ 医療機関連携
 - ・ 要支援妊婦として情報提供、連携
- ◎ 同行訪問
 - ・ こども支援課(精神保健福祉士)と連携
母子健康手帳交付時のリスクが高いことから、精神保健福祉士と同行訪問の実施
Aさんからの訴えごとに、LINE連絡・電話、こども支援課と同行訪問(4回)を実施し、情報を共有

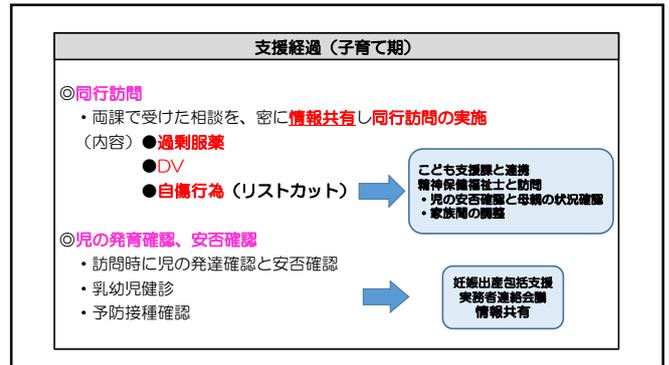
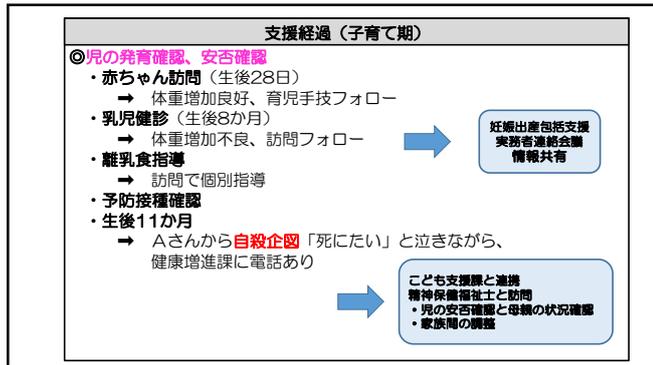
◆ 子育て期

- 乳幼児健康診査
 - ・ こども支援課と連携
健診時間に、精神保健福祉士・家庭相談員が来所し要支援産婦(要保護児童・要支援児童)の情報連携
- 育児相談、離乳食相談
- 発達相談
- 予防接種

支援経過(子育て期)

- 【出産、入院状況】
 - ・ 38週6日 正常分娩で男児出産(3,088g)
医療機関と連携。入院中は特に問題なく経過し退院となる
- ◎ 関係機関との連携
 - ・ 生後9日目 母乳外来受診
児の体重減少で入院
Aさんの理解力が乏しく、授乳手技が母親の自己流に移行していた
 - ・ 産後2週間健診 EPDS 10点【10項目(自殺企図の有無)1点】
→ 医療機関から連絡あり
こども支援課と連携、精神保健福祉士と同行訪問計画
 - ・ 産後1か月健診 EPDS 4点【10項目(自殺企図の有無)0点】
→ 医療機関と連携。授乳手技も獲得し児の体重増加も問題なし

令和2年度 厚生労働省
母子保健指導者養成研修
研修5. 子育て世代包括支援センターに関する研修



ケース2 産褥期に自殺企図、育児時期に自傷行為を営った里帰り産婦

Bさん：30歳 初産 里帰り出産（住所：茨城県T市）望まない妊娠

<既往>肥大型心筋症（ペースメーカー挿入）**パニック障害**

<家族状況>実父母・児（里帰り先）、夫（アパート）

<妊娠経過>精神的に不安定だったが、内服でコントロール

<分娩経過>36週前期破水で入院
帝王切開にて男児出産（2,213g）

<産褥経過>産後7日目に母子退院（稲敷市へ）
退院後（産後12日目）、**心不全のため入院**
入院中、**自殺企図（産後18日目）**。
精神科受診後、**稲敷市の実家に退院**となる

まとめ

妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援のために、妊産婦のメンタルヘルス支援は不可欠である。

今回、母子健康手帳交付の早期からリスクを把握し、関係機関（精神保健福祉士・医療機関）と連携することで支援の充実に繋がった。

今後も、関係機関等と早期に情報を共有し、連携体制の強化を図ることで、切れ目ない支援のさらなる充実に繋げていきたい。

